

# 台湾、理工系留学生30万人招へい計画 人材不足に危機感

台北支局 龍元秀明

半導体

フォローする

2024年3月25日 5:00 [会員限定記事]

保存



Think!

青山瑠妙さん他1名の投稿



明新科技大学は半導体人材を育成するため最新の実習設備を備える（台湾北部・新竹県）

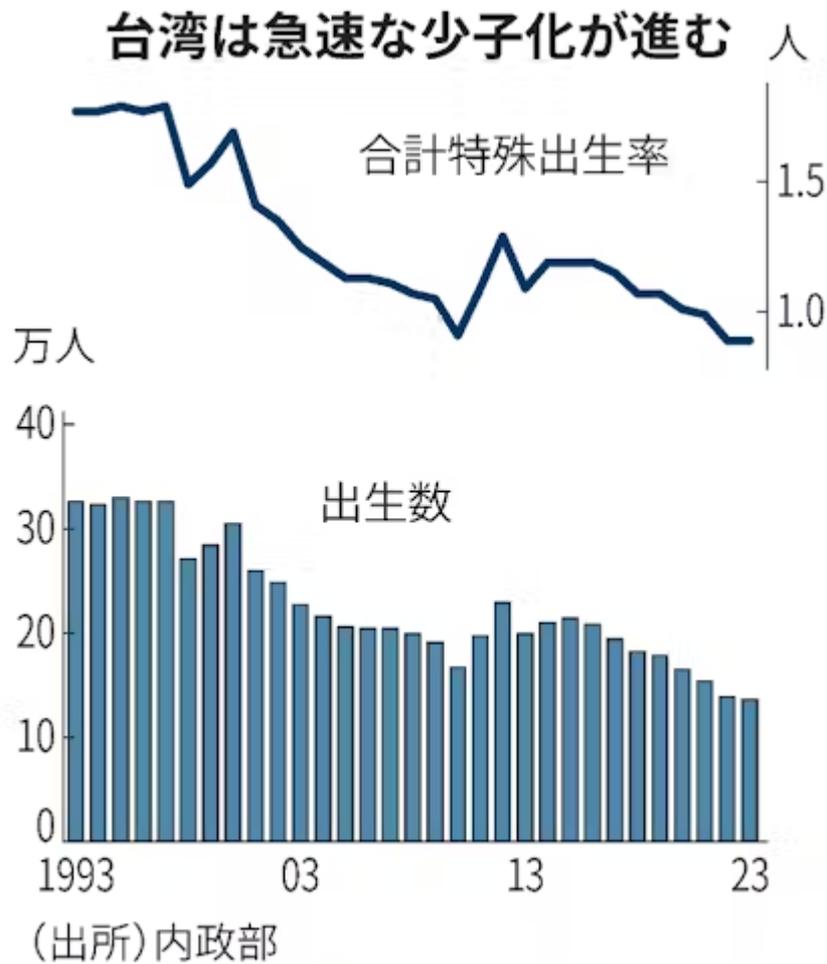
台湾が今後、深刻な人材不足に直面する恐れがある。半導体大手の台湾積体電路製造（TSMC）を筆頭にハイテク産業が成長する一方、少子化が急速に進んでいるためだ。危機感を持つ当局は、2030年までに理工系留学生を大量の30万人超受け入れ、対策を打ちたい考えだ。

多くの半導体関連企業の拠点が集積し「台湾のシリコンバレー」と呼ばれる北部・新竹。その郊外にキャンパスを構える明新科技大学は「ミニTSMC」と称される。構内には台湾当局や企業の支援で、実際の半導体工場並みの実習設備が備えられ、学生は日々、実戦さながらの訓練を積む。卒業後は企業の即戦力として巣立つサイクルができあがっているのだ。

学生は、在学中からTSMCや日月光投資控股（ASE）、力成科技（パワーテック・テクノロジー）といった有力企業でもインターンに参加し、半導体業界で「現場を支えるスペシャリスト」に育つ。

キャンパスに目立つのがベトナム人留学生だ。特に半導体の専門学部「半導体学院」には、約2300人の全学生のうち、700人弱をベトナム人留学生が占める。

修士課程に在籍するベトナム人留学生のダンさん（23）は「世界トップの『台湾の半導体』を学ぶために留学を決めた」と話す。修了後は「まず3～4年は台湾の企業に勤め、業界経験を積みたい」と語る。

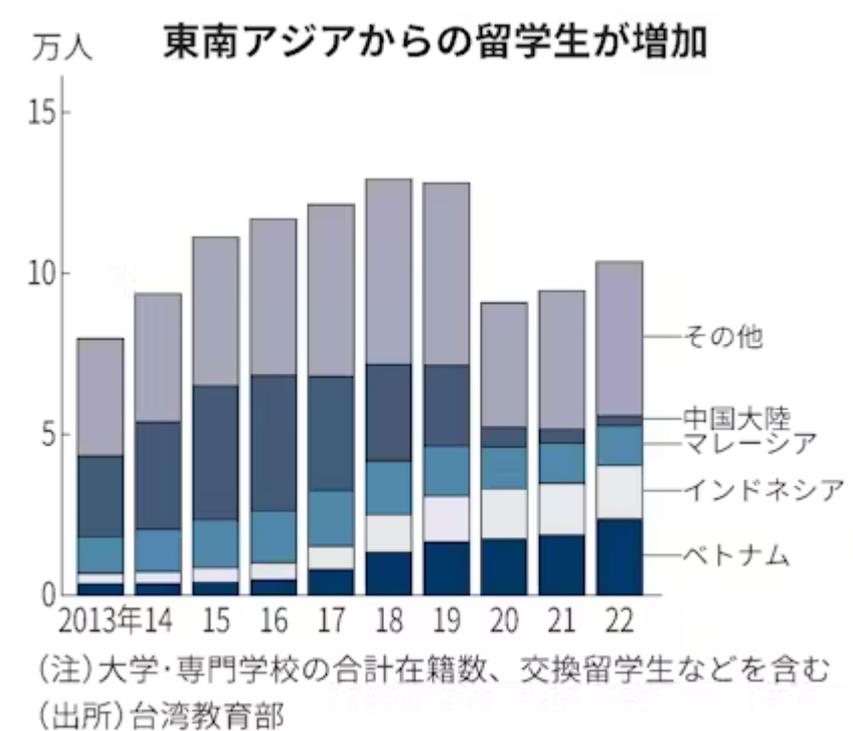


明新科技大がベトナム人留学生の受け入れを急いできた背景には、台湾のハイテク企業が抱える人材不足への危機感がある。半導体学院の張合・院長は「人材は数万人規模で不足している。企業と大学が一体で人材を育成しなければならない」と強調する。

人材不足は今後一段と深刻化しそうだ。台湾では実質賃金の伸び悩みや不動産価格の高騰などを背景に、2000年代に入って少子化が加速した。1990年代後半まで、おおむね30万人以上を維持した台湾の出生数は、00年代に入って20万人前後に急減。さ

らにこの数年間は新型コロナウイルス禍を経て一段と出生数が減少し、23年は過去最低の約13万5000人となった。

一方、半導体業界ではこの数年間で半導体の不足や、生成AI（人工知能）技術の進歩が顕著となった。業界は人材の争奪戦の様相となり、TSMCだけでも毎年6000人以上を採用するようになった。今後はさらに生成AI向けなど半導体需要が増加する見込み。半導体が経済全体を支える台湾にあって、当局や企業、大学には長期的な戦略で人材不足への対応策が求められていた。



そこで、目を付けたのが東南アジアなど海外からの留学生だった。当局は23年、52億台湾ドル（約240億円）を28年までに投じ、半導体やSTEM（科学、技術、工学、数学）などを学ぶ留学生の受け入れを強化する方針を示した。2021～30年に累計32万人を招く計画をつくり、従来の1.5～2倍の受け入れペースとした。

さらに24年からは「新型専班」と呼ぶ特別コースを設け、目玉策を打った。台湾当局と企業が留学生に奨学金や生活費までを支援する代わりに、卒業後は台湾に残って一定期間、就業してもらう仕組みだ。域内での就職率を現状の4～5割から7割にまで高めることを目指し、人材の引き留めに躍起だ。

こうした策で主に想定するのは、ベトナムやインドネシア、マレーシアなど東南アジアからの留学生で、さらなる受け入れ増を狙う。



明新科技大学は2023年7月、ベトナム・ホーチミンに留学生の募集拠点を設けた=同大学提供

「台湾留学」の認知度向上を狙い、最近では大学や企業などが手を組み、ベトナム、インドネシア、フィリピンなど東南アジア各地に留学生の募集拠点を設置する動きも目立つ。

半導体を柱とした経済成長を今後も進める台湾にとって、関連人材の獲得、確保はまさに死活問題ともなる。

#### 【関連記事】

- ・ [「昇り龍」TSMC、NVIDIAも頼る半導体の巨人の実力](#)
- ・ [TSMC、脱「台湾集中」急ぐ 日米欧で生産2割底上げ](#)

取材の裏側・解説 **NIKKEI Briefing** **会員限定**  
 ニュースレター登録はこちら

#### Think!

多様な観点からニュースを考える

※掲載される投稿は投稿者個人の見解であり、日本経済新聞社の見解ではありません。



**青山瑠妙**

早稲田大学大学院アジア太平洋研...



**ひとこと解説** 台湾で理系学生が激減していることは大きな社会問題となっている。台湾のキャンパスでは以前と異なり東南アジアの留学生がかなり増えていると、行くたびに感じる。

少子化で受験者数が大きく減少。加えて台湾の入試システムの問題もあり、TSMCなどのハイテク人材のみならず、介護、医師の人材不足も切実な問題とされている。

日本からすると、こうした問題は決して他人事ではない。米中対立の影響で、STEM（科学、技術、工学、数学）分野における協力の在り方も大きく変容し、今後、日本もベトナムやインドからの理系留学生に依存するだろう。まず、教育現場における人材競争への備えが必要そうだ。

2024年3月25日 9:33

**鈴木一人**

東京大学 公共政策大学院 教授



**分析・考察** 台湾の人材不足は少子化だけの問題ではない。世界的に見ると台湾の賃金水準は低く、TSMCなどではエンジニアに高額給与を払うが、それが貧富の格差を拡大することになり、社会的な軋轢が生まれるという問題がある。さらに、台湾の優秀な学生はほとんどが半導体産業に吸収されてしまうため、他の産業に人材が回らず、半導体一本槍の状態になってしまう。しかし、熊本でもアリゾナでも人材不足は言われており、これは急増する半導体への需要に対して人材の供給が世界的に追いついていないことを示しているのだろう。

2024年3月25日 13:16



春割ですべての記事が読み放題  
有料会員が2カ月無料

春割で無料体験する

有料会員限定

キーワード登録であなたの  
重要なニュースを  
ハイライト